



ワスレナグサ *Myosotis* cvs. (ミオソティス) ムラサキ科。

本来は多年草ですが、夏の暑さに弱く、日本では一年草扱いです。英名は forget-me-not。可愛い小花をカタツムリ状に巻いたようにたくさんつけますが、開花とともにまっすぐになります。萼片や茎にたくさん毛が生えています。青とピンクの品種がよく流通しています。

春らしい一年草で、パンジーやチューリップなどと植えると効果的です。



デージー *Bellis perennis* (ベリス ペレンニス) キク科

春花壇の代表的な種類です。長い筒状花と黄色の小頭状花からなるフィストウローサ種、と舌状花が多く頭状花が少ないリグロサ種(イングリッシュデージーなど)に大きく分けられます。野生種は白い一重咲きで、寒冷地では芝生一面に雑草化することもしばしばみられます。

当校キャンパスではメタセコイアの植え込みの所に原種に近いものが少し見られます。



アジュガ レプタンス

Ajuga reptans cvs.

アユガ レプタンス シソ科

よく使われるグランドカバー植物で、常緑の多年草です。よく殖え、地面をべったり葉で覆いますが、春に花茎を伸ばし、たくさんの花をつけ、存在感をアピールします。

写真左はごく普通の品種で、良く広がります。右は‘チョコレートチップ’という品種で、小型でコンパクトにまとまり、葉も小楕円で小ぶりですが花付きはともいいです。時期によって葉が赤味がかりカラー

リーフとしても使えます。このほか、葉が斑入りのものや、ライム色、花がピンクなどの品種もあります。普通のはやや増えすぎるので、植栽場所は配慮が必要です。日陰でも育ちますが、乾燥地はあまり好きではないようです。



リクニス フロスククリ *Lychnis flos-cuculi* ナデシコ科

ヨーロッパ原産の丈夫な常緑宿根草です。

暖地でもよく育ちます。5 枚の花弁は切れ込みが深く、雪の結晶のような美しい花型です。純白の品種‘ホワイトロビン’はなおさらです。

株分けで殖やし、こぼれ種でも殖えるようですが、繁殖しすぎて困るというほどではありません。



オステオスペルマム *Osteospermum* cvs キク科

半耐寒性の常緑多年草。アフリカ原産で、アフリカンデージーとも呼ばれます。白、紫、ピンクなどの花色ですが、近年育種が進んで黄色やオレンジの品種もあります。天気の悪い日や夜は花を閉じる性質がありますが、最近は閉じない品種も出てきています。本州関東以南ではほぼ冬越しできますが、強い霜に当たると弱ります。乾燥にも強く、花も美しいですが株姿が乱れがちです。



ローダンセマム ホスマリエンセ *Rhodanthemum hosmariense* キク科

北アフリカ原産の耐寒性常緑多年草。花のない時でも切れ込みの深いシルバーリーフがきれいです。感想には強いですが、梅雨時の高温多湿に弱いので、水はけのよいロックガーデンなどに向いています。花後、梅雨前に切り戻して風通しを良くすることで夏越ししやすくなります。キャンパスのものは特にしていませんが、うまく環境が保たれているようです。



トキワマンサク、ベニバナトキワマンサク *Loropetalum chinense* (ロロペタルム シネンセ) マンサク科

日本の野山にあるマンサクの仲間、常緑の低木です。中国原産ですが、日本にもごく限られた分布が点在するようです。

キャンパス内のあちらこちらに生垣などで観られます。①白い花、緑の葉のトキワマンサクは少ないですが、よく見ると少し混じっています。

花の赤いのはベニバナトキワマンサクと言いますが、この中にも、②のように葉が緑（新葉は赤いが奥のほうに見える古葉は緑）のタイプと③葉がずっと赤いタイプがあります。④は①～③が混じった生垣です。赤と緑を混色し、インパクトのある生垣にできます。単木で植え、自然形にすると5mくらいになり、春にびっしりと花をつける様子は目を引きます。

